

第 85 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
株式会社インターネットイニシアティブへの追加質問及び回答
(モバイル接続料の検証関係)

問 前回会議で示された KDDI の予測値と実績値の大きな乖離について、KDDI の説明について、どのように考えるか、また、予測値と実績値の乖離を縮小するため、また予見性を高めるためには、接続元事業者においてどのような対応が有効と考えられるか、コメント頂きたい。

(佐藤構成員)

(インターネットイニシアティブ回答)

- モバイル接続料の検証における、KDDI 様の予測値と実績値の差異に関するご説明については、需要の差異が大きな要因の一つであるが、今後は実績を元に予測を立てていくので、乖離については埋められると考えている。ということであったと認識しております。ただ、将来原価方式開始以降、KDDI 様のデータ接続料の予測値と実績値の差異は、2020 年度は約 8.7%、2021 年度は約 15.8%、2022 年度は約 24.9%と乖離が拡大していき、ご説明頂いた対応で改善されていくのか疑問が残ると考えます。

予測値と実績値の差異の改善については、差異の要因を詳細に分析し今後の予測に反映していくことは重要であると考えますが、将来の事業計画や需要の動向等についても踏まえた形で、可能な限り考えられる要素を反映していくことが必要と考えます。

構成員限り